
東方女神録

七夜士郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方女神録

【Nコード】

N0359Z

【作者名】

七夜士郎

【あらすじ】

今回初めて小説を投稿します。

現在フォレストページで書いている小説です。

基本的に百合ハーレムを目指します。

また、小生は小説作成初心者なため、練習がてらに書いています。

そのため、おかしなところが多々あると思いますがよろしくお願ひします。

ちなみにこの小説は基本的には一話完結型の短編集のようなものです。

みんなの感情（前書き）

いちおう感情を書いたほうが分かりやすいと思うので書きます。

みんなの感情

霊夢 月姫

昔から修行等をしてくれて育ててくれた母親のような人物であり、愛すべき人物。

月姫の前ではずっとデレている。

魔理沙 月姫

昔からの知り合いで、霊夢と同じく母親のような人物であり、愛すべき人物。

紫 月姫

旧知の仲の親友であり、甘えられる大切な人。心の底から愛している。

幽々子 月姫

旧知の仲の親友であり（生前の幽々子とも面識あり）、甘えられる大切な人。心の底から愛している。

妖夢 月姫

尊敬できるお方。私にとっての憧れ。

レミリア 月姫

愛すべきお母様。

唯一素で甘えられる存在

フラン 月姫

大好きすぎるお母様

咲夜 月姫

お嬢様たちにとっても、私にとっても大切なお方

パチュリー 月姫

大切な親友であり、安心できる人物

小悪魔 月姫

パチュリー様の大切なご友人で、自分にとっての憧れ

美鈴 月姫

大好き

アリス 月姫

愛しています。私の運命のひと。大好きです。結婚しましょう！
(ヤンデレじゃないです)

上海 月姫

親みたいな存在。
なので、本当はお母さんとか呼んでみたい。

こーりん 月姫

好きな異性。
自分にとって理想の女性。

妹紅 月姫

慧音と同じくらいに尊敬している人物
また、自分にとっての憧れ

輝夜 月姫

素直になれないが、大好きな人物

永琳 月姫

非常に好意を抱いている人物

てゐ 月姫

大好きな母上

うどんげ 月姫

ヤンデレになるくらい愛している

早苗 月姫

将来結婚したい人

ライバル神社の神様だけどそんなの関係ない

神奈子 月姫

昔から好きな人物

普段は平静だがたまに暴走

そして、へたれ

諏訪子 月姫

母親に甘えるかのようにしているが、実際は狙って子供のような行動をしている
とりあえず結婚したい

.....

月姫 霊夢

娘のように昔から接してきたため、本当の娘のように思っている。

月姫 魔理沙

ほぼ霊夢と同じ。

月姫 紫

旧知の仲の大切な親友。

月姫 幽々子
旧知の仲の大切な親友。

月姫 妖夢
私を慕ってくれるかわいい妹みたいな存在。

月姫 レミリア
我が子のような存在

月姫 フラン
同じく我が子のような存在

月姫 咲夜
からかうとかわいいメイドであり、まるで妹のような存在

月姫 パチュリー
大切な親友

月姫 小悪魔
毎回案内してくれるかわいい司書

月姫 美鈴
毎回がんばっている頼りになる門番

月姫 アリス
たまに変になるけど、かわいくていい子。

月姫 上海
かわいい人形。
娘のように可愛がっている。

月姫 コーりん
お世辞が上手い、青年。

月姫 妹紅
からかすと面白い子
迷ったときによくお世話になっている

月姫 輝夜

素直じゃないけど根はいい子
からかうと面白い子

月姫 永琳

昔からの知り合いで、昔は病気でよくお世話になっていた

月姫 てゐ

かわいい娘
ペットのようにかわいい子

月姫 うどんげ

時々纏う雰囲気がおかしくなるけど、素直でいい子

月姫 早苗

いい子で、霊夢と仲良くしてほしい

月姫 神奈子

昔から付き合いがあり、頼りになる神様

月姫 諏訪子

昔からかわいい妹のような娘のような親友

新しいキャラが出てくることに更新します。

みんなの感情（後書き）

基本みんなに愛される。

最近感情の書き方が雑になった感じがする・・・

主人公設定（前書き）

とりあえず設定

主人公設定

主人公の設定

名前：月姫 葵

種族：女神

容姿：腰まで届く長く綺麗な銀髪で、見とれるほどの美しい顔立ち。体つきは細身で胸は大きめ。上下共に純白のドレスで身を包んでいる。

人物：紫とは旧知の仲の月の女神。他にも昔から関わりのある人物が多い。

聖母のように穏やかで、ちょっと天然が入っている。そんな性格のためか、愛されやすく、みんなからは「お母様」や「お姉様」と呼ばれたりする。

ちなみに幻想郷において指折りの実力者である。

また、現在はいろいろあつて博霊神社の神様として居候している。

能力：天変地異を操る程度の能力

異名：月に愛された女神

設定等は変更する場合があります

主人公設定（後書き）

こんな感じ

のんびりゆったり(前書き)

とりあえず最初の小説。
お相手は霊夢と魔理沙。

のんびりゆったり

博霊神社

月姫：今日も平和ね〜

月姫は現在博霊神社の縁側にてのんびりとしていた

霊夢：月姫さん。お茶です。

その後ろから腋巫女こと霊夢がお茶を持ってきた

月姫：あら、ありがとう霊夢ちゃん。

ズズッ

.....

霊夢：平和ですね。

月姫：ふふっ、そうですね。

まるで親子のようなふたりである

?????：おっい・・・

そんなところに白黒の物体が近づいてくる

月姫：あら？あれは魔理沙ちゃんじゃないかしら？

霊夢：そうですね（せっかく月姫さんと二人で過ごしてたのに・・・

）

霊夢は二人の時間を邪魔されて不機嫌そうだ

魔理沙：おはようなんだぜ！

元気よく挨拶する魔理沙

月姫：ふふっ、おはよう。今日も魔理沙ちゃんは元気ね。

魔理沙：私はいつでも元気なのが取り柄なんだぜ！

月姫：いい取り柄ね・・・

そう言いナデナデと魔理沙を撫でる月姫

魔理沙：（嫌じゃないけど、恥ずかしいぜ・・・）

魔理沙も満更ではなさそうだ

霊夢：つ、月姫さん！わ、私も！

霊夢は嫉妬し、自分もやってもらおうとする

月姫：ふふっ、甘えん坊ね・・・

ナデナデ

霊夢：（ああ・・・幸せ・・・）

今日も幻想郷は平和である

のんびりゆったり(後書き)

どうぞしよつか？

どうぞ感想にて罵ってやってく下さい。

旧知の仲のふたり（前書き）

え？ゆかゆゆ？なにそれ、おいしいの？

旧知の仲のふたり

紫：あゝおゝいゝ

タツタツタ・・・ギュッ

月姫：あら？紫、久しぶりね・・・

月姫に走ってゆき抱きつく紫
そしてそれを抱き返す月姫

月姫：ふふっ、相変わらずね。

紫：だって葵に抱きつくとき気持ち良いんだもの

そんななごやかな会話をしていると

????:あゝっ！何やってるのよ紫！私が目を離してる隙に！
紫：ふふん、別にいいじゃない幽々子

幽々子が来た

そう、ここは白玉楼である

幽々子：ダメよ！私が抱きつくんだから！

月姫：ふふっ、じゃあ幽々子もいらっしやい

幽々子：えっ！じゃ、じゃあ失礼して……

幽々子は頬を染めながら近づく

ギョッ

幽々子：ふふっ、気持ちいいわ

やっと落ち着いて、いつものおっとりした感じに戻りつつある幽々子
鼻から赤いモノが垂れてる気がするが気にしちやあいけない

紫：むう……のきなさいよ……

幽々子：い・や！

月姫：二人ともそんなに抱きつくのが好きかしら？
二人：ええ、もちろん！

即答である

???：幽々子様失礼しま・・・何やってるんですかあ！

斬れないものなどあんまりない庭師がお茶を持ってやってきましたよ

幽々子：あら、妖夢。どうっ？うらやましい？
妖夢：とてもね！

もはやキャラが崩壊している（今更だが）

今回も愛されている月姫であった・・・

旧知の仲のふたり（後書き）

やはり短いw

紅魔館の風景（前書き）

やっとこさ更新できたぜよ

今回は紅魔館メンバーがお相手です。

紅魔館の風景

紅魔館

レミリア：お母様・・・いい加減私の館で暮らさないかしら？

現在月姫は紅魔館に来ていた

レミリアは愛すべきお母様と一緒に暮らしたいがために毎回来ると
お願いしている

月姫：ごめんね・・・私は博霊神社の神様だから、博霊神社に住む
と決めてるの・・・

毎回同じお願いをされても嫌な顔一つせず申し訳なさそうな顔を
して断る

月姫は一応博霊神社の神様である

だから、博霊神社を出ることは基本的には出来ない

レミリア：そう・・・残念だわ・・・

口ではなんともなさそうに言うが、実際はかなりのショックを受けている

フラン：おっかあさま〜

ダダダ・・・
ギョッ

そんなやり取りをしているとフランが走ってきて月姫に抱きつく

月姫：あら、フラン。今日も元気ね。

ナデナデ

フランを撫でる月姫

フラン：でしょ〜 えへへ〜・・・

月姫：ふふっ・・・

嬉しそうにフランは笑い

月姫はそれを見て微笑む

なんだこの幸せな家族の光景は

レミリア：フ、フラン・・・？わ、私が抱きつく前に抱きつくとは
どういっ了見かしら？

しかし、それを許さないものがここにいた
静かに嫉妬の炎を燃え上がらせるレミリア

カリスマの力の字も感じられない

フラン：えへへ〜・・・羨ましい？

レミリア：くっ！

フランが挑発しレミリアは血の涙が出そうなくらい悔しがっている

咲夜：失礼します。紅茶が入りました。

そんなやり取りの最中に咲夜が紅茶を持って入ってきた

月姫：あら？ありがとう咲夜ちゃん。

咲夜：いえ・・・ところで咲夜ちゃんと呼ぶのはいい加減やめていただけないでしょうか？

月姫：あら、嫌なの？

咲夜：い、いえっ！嫌なわけではないのですが・・・恥ずかしいといつかなんといつか・・・

顔を真っ赤にし、わたわたと後半は口ごもらせながら言う咲夜

かわいいなおい

月姫：ふふっ、じゃあいいじゃない

ナデナデ

咲夜を撫でる月姫

つくづく撫でるのが好きらしい

咲夜：あう・・・

月姫に撫でられ顔を赤くする咲夜

レミリア：こら！そこなにちゃついでるの！
フラン：お母様、私にももっとナデナデして

あれから少し時間が経ち・・・

月姫：レミィ・・・ちよつとパチュリーにも会ってくるわ。
レミリア：・・・わかったわ。

若干不眠そうだが了承するレミリア

フラン：すうすう・・・

フランは疲れたのか寝ている

月姫：じゃあ、フランをお願いするわね？咲夜ちゃん。
咲夜：わかりました。

そうして、図書館へと向かう月姫

月姫：ふうっ・・・やっと着いたわ。パチュリーはいるのかしら？
小悪魔：どなたですか・・・って月姫様！？来てたんですか！

小悪魔が月姫が居ることにびっくりする

月姫：あら？こあちゃん！ちょうど良かったわ。パチュリーの所に案内してもらえる？
小悪魔：わかりました。ではお手をどうぞ・・・
月姫：わかったわ。

ギョッ

手を繋ぐ二人

小悪魔：（この瞬間が一番幸せです・・・）

小悪魔は頬を染めながらパチュリーの所に向かう
その様子に月姫は首を傾げる

パチュリー：・・・

現在図書館の一角で本に読みふける紫もや・・・げふんげふん
パチュリーである

パチュリー：あ、紅茶が切れたわ。こあく！こあく！

紅茶がなくなつたため小悪魔を呼ぶパチュリー

月姫：はい、なんでしようパチュリー様。

パチュリー：紅茶を咲夜に入れてきてもらえる？

パチュリーは本に集中しているため返事をしてるのが誰か気づかない

月姫：ふふっ、わかつたわ。

パチュリー：ええ、頼むわ・・・えっ！

ようやく自分が返事してる人物が誰か気づいパチュリー

月姫：くすくす・・・久しぶりねパチュリー。

パチュリー：あ、葵・・・

パチュリーは愛しの親友と久しぶりに会えたため声がどもる

月姫：紅茶ならさつき小悪魔に頼んだからもう少ししたら来るんじゃないかしら？

パチュリー：・・・

月姫：紅茶が来るまでお話ししましょう？

パチュリー：ええ、そうね・・・

嬉しそうに顔を綻ばせ言うパチュリー

そして話し込み・・・

小悪魔：パチュリー様、月姫様。紅茶お持ちしました・・・あれ？

小悪魔の前には仲良く寝込む二人の姿が・・・

小悪魔：ふふっ・・・

小悪魔はそれを微笑ましそうに眺め、紅茶をそつと置いた

あれから起きた月姫は帰ることにした
起きたときにパチュリーは顔を真っ赤にしていた

パチュリー：また、来てね。あ・・・

小悪魔：私も会えるのを楽しみにしています。

月姫：ええ、また必ず来るわ。

そう約束し、図書館を後にする

パチュリーと小悪魔は寂しそうに

特にパチュリーは寂しそうにしていた

レミリア：帰るのお母様？

廊下でレミリアに出会った

月姫：ええ。

レミリア：また・・・来てくれるよね？

いつものレミリアより弱弱しく目を潤ませて言う

月姫：もちろんよ

月姫は必ず来るといふ約束をする

レミリア：わかった・・・じゃあまた会いましょう？

そう言い別れる

そして、門まで来た月姫

美鈴：あれ？月姫さん帰られるんですか？

美鈴は月姫が来ている影響が
珍しく起きていた

月姫：ええ。大切な娘が待ってるから・・・

美鈴：霊夢さん、愛されてますねえ・・・なんだかとっても霊夢さんが羨ましいです。

月姫：あら、どうして？

美鈴：私は月姫さんが大好きですから！そんな月姫と一緒にいつまでもいられる霊夢さんがすごく羨ましいです。

かなり大胆な発言をする美鈴

月姫：ふふっ、私も美鈴ちゃんは大好きよ。

しかし、月姫には効いていない

美鈴：いずれは私だって月姫さんと・・・

だんだんと妄想に浸り始める美鈴

月姫：美鈴ちゃん？・・・どうしたの美鈴ちゃん？・・・きつと門番の仕事で疲れてるのね。

妄想している美鈴のことを盛大に勘違いしながら博霊神社へと帰っていった

おまけ

美鈴の妄想

美鈴：月姫さん！私が貴女は私が必ず守ります！
月姫：美鈴ちゃん・・・
ありがとう。私今すごい幸せよ・・・

チュッ

そう言い美鈴の頬にキスをする月姫

美鈴：えへへ・・・うへへ・・・
咲夜：・・・とりあえず死になさい。

美鈴の悲鳴が響き渡った。

紅魔館の風景（後書き）

若干強引に話をまとめた感が否めない
感想待ってます。

女神と人形遣いと骨董屋（前書き）

今回はアリスと上海とこーりんです

女神と人形遣いと骨董屋

魔法の森

月姫：あら、迷ってしまったわ・・・

現在月姫は絶賛迷子中であつた

月姫：困つたわ・・・

????：あれ！？もしかして月姫さん？（こんな所で会えるなんて
やっぱり運命を感じるわ）

月姫が迷つたことに頭を悩ませていると金髪の少女と同じく金髪の
ふわふわと浮いている人形に出会つた

金髪の少女は何やら危険な思考をしているが・・・

月姫：あら、アリスちゃんに上海ちゃん。久しぶりね。

出会ったのはアリスと上海であった

上海：シャンハイ！（お久しぶりです！）

アリス：はい！お久しぶりです！・・・何かあったんですか？

アリスは月姫に会えたことが嬉しいせいか、満面の笑みで聞く

月姫：ええ、実は香霖堂に行こうとしてたのだけど、迷ってしまっ
て・・・

そう言っつてしゅんとする月姫

アリス：そうなんですか・・・（ちっ、あの変態眼鏡の所か・・・
それにしても迷っつてしゅんとする月姫さん・・・かわいい？）
上海：シャンハイ・・・（ご主人様、自重してください・・・）

相槌を打ちつつ内心は、前半は黒く、後半は変態全開である
こーりんよりお前が変態じゃないかと声を大にして言いたい
そして上海はそんなご主人にため息をつく

アリス：じゃあ、私が案内します！

月姫：いいの？

アリス：はい！任せてください！

上海：シャンハイ！（任せて！）

月姫：ありがとう・・・

月姫は感謝の意を込めて微笑む

アリス：こちらこそありがとうございます・・・（ダラダラ）

鼻血を大量に流す変態

上海：シャンハイ！（やっぱり月姫さんは綺麗！）

上海は月姫の綺麗な笑顔を頬を染めつつ褒める

月姫：ありがとう、上海ちゃん・・・ってアリスちゃん鼻血出てるわ！

アリス：気にしないでください。

月姫：そ、そう？

月姫は若干引きながら答える

アリス：ではさっそく行きましょう！

月姫：お願いね。

上海：シャンハイ（レッツゴー）

こうして香霖堂に向かう一行であった・・・

アリス：はい、着きましたよ。

月姫：ふふっ、ありがとうございます。おかげで助かったわ。

アリス：いえ！月姫さんのためですから・・・

月姫：これからどうするの？

アリス：せっかくですから私も寄っていきます。（変態と二人きりにさせてたまるか！）

正直アリスのほうに変態だが

月姫：じゃあ、入りましょう？

アリス：はい！

からんころん

こーりん：いらっしゃ・・・おや？

月姫：森近くん、久しぶりね。

こーりん：麗しの月姫さん、お久しぶりです・・・
最近会えなかったので胸が締め付けられる思いでしたよ。

キザに口説くこーりん

アリスよりは変態度は下か？

月姫：ふふっ、相変わらずお世辞が上手いわね？

こーりん：いや、僕は本気で・・・

アリス：ごほんっ！

上海：シャンハイッ！

こーりんがうそ偽りのない気持ちを述べようとした瞬間にアリスと
上海の邪魔が入る

こーりん：なんだ・・・君も居たのかい・・・

アリス：ええ。残念だったわね。月姫さんが変態に何かされないか
見張るためにここに来たのよ。

こーりん：僕が変態・・・？はっ！変態の君に言われたくないね。
・・・大体女同士なんて非生産的だと思わないかい？

アリス：よし、そこに直れ。あんたは今、全国の百合達を敵に廻し
たわ。

口論を繰り広げる二人
それを見て微笑む月姫

月姫：仲がいいのね。

二人：どこがですか!?

月姫：くすくす・・・

二人（と上海）：・・・

月姫のその可愛らしい仕草に顔を赤らめる二人（と上海）

月姫：？、どうかした？

こーりん：いえ・・・相変わらず美しいと見とれていたのですよ。

月姫：あんまり、からかわないで・・・

珍しく顔を赤く染める月姫

アリス：びきっ

上海……

頭に血管が浮かび上がるアリス
そして、目が笑ってない上海

アリス：月姫さん！さつさと用事を終わらせましょう！
上海：シャンハイ！（そうしましょう！）

アリス達はさつさとここを離れようとする

月姫：え、ええ……

月姫はその気迫にびっくりしながらも了承する

こーりん……それで、月姫さんは本日は何用でこられたのです
ようか？

いつのまにか商売人の顔に戻り尋ねるこーりん

月姫：そろそろ、珍しいものでも入ってないか見に来たの。

月姫は珍しいものを収集するのが好きだから、たまにこうして香霖堂に来るのだ

・・・なぜ毎回来てるのに必ずとっていいほど迷うのかは謎である

こーりん：やはりそうですか。月姫さんが好みそうな珍しいものいろいろと入りましたよ。

そうして、商品を並べるこーりん

月姫：わあ

月姫は目を子供のようキラキラし始めた

これを見るのがコーリンの楽しみだったりする

アリス：月姫さん・・・

アリスはそんな月姫を初めてみたのか
恍惚としながら鼻血を出している

自重しろ

上海・・・

上海は見とれている

そして時間が経ち・・・

月姫：いい買い物できたわ　ありがとうね、森近くん。
こーりん：いえ、またのお越しをお待ちしております。

あれから買い物を終えた月姫

月姫：じゃあ、また来るわね

魔法の森

アリス：月姫さん、博霊神社まで送ります。
月姫：お願いできるかしら？また、迷いそうなの・・・
アリス：わかりました。

博霊神社

アリス：着きましたね。（ああ、もう少し一緒にいたかった）
月姫：アリスちゃん、今日は本当にありがとう。
アリス：いえ、気にしないでください。私は月姫のそばに居るだけで幸せなのでから。
上海：シャンハイ！（私もです！）
月姫：ふふっ・・・

こうして一日は終わった

女神と人形遣いと骨董屋（後書き）

基本的には百合なため

今後こーりんに出番はないw

永遠の日々（前書き）

今回は永遠亭と妹紅です！

永遠の日々

迷いの竹林

月姫：ごめんね、妹紅ちゃん。案内させちゃって・・・

現在月姫は妹紅の案内で永遠亭へと向かっていた

妹紅：気にしないでください。月姫さんの頼みですから構いません。

妹紅は本来なら殺し合いのとき以外は永遠亭にあまり近づこうとはしないが、月姫の頼みとあらば話は別である

月姫：ふふっ・・・ありがとうね。

今回妹紅ちゃんに案内を依頼したのは私が迷いそうだからだけじゃ

ないのよ。

妹紅ちゃんにたまには友人に会いに行ってもらおうと思って・・・
妹紅：へ？友人って？

妹紅は自分の友人に心当たりがないため疑問顔になる

月姫：輝夜ちゃんよ。

妹紅：はい！？

月姫の衝撃発言に思わず声を上げる妹紅

妹紅：・・・私とあいつはそんな生易しい関係じゃないですよ・・・

月姫：ふふっ、仲良さげに見えるけど？

妹紅：良くないです！

・・・その、むしろライバルというか何と云うか・・・（月姫さんを巡るライバルだなんて言えない・・・）

月姫：？

妹紅と輝夜は月姫を巡って毎回喧嘩になる

そんな妹紅に首を傾げる月姫

妹紅：な、なんでもないです！とにかく！私達は友人なんかじゃないです！

月姫：ふふっ、そういうことにしておくわ。

妹紅：月姫さん……

月姫にからかわれ、顔を若干赤くする妹紅であった……

永遠亭の入り口付近

そんなやり取りをしていると、いつのまにか永遠亭の近くまで来ていた

月姫：妹紅ちゃん、ありがとう。

妹紅：いえ、私が好きでやったことですから・・・
???：月姫！ やつと来たわね！

永遠亭の中から黒髪の少女が走ってくる

月姫：輝夜ちゃん。

輝夜：まったく・・・また、迷ってたの？随分遅かった・・・離れなさい、焼き鳥。

妹紅：あ？何だとこのニート。

輝夜：私ニートじゃないですしーおすしー。私の月姫から離れなさいと言ってるのよ。

妹紅：誰がお前のだ。月姫さんは物じゃないんだぞ。しかも、毎回言ってるが、月姫さん呼び捨てにすんな。

輝夜：私と月姫の仲なんだからいいじゃない。それにあなたにそれを言われる筋合いはないわ。

妹紅：よくねえんだよ！大体てめえはいつもいつも・・・

ぎゃーぎゃー

月姫をそっちのけで騒ぐ二人

月姫：あらら、困ったわね・・・

口ではそう言いながらも、顔は微笑ましいものを見るように微笑んでいる

????：あら、月姫さん？もう、中に入ったと思っていたのですが？

後ろから青と赤が半々になっている珍妙な服を着た、銀髪の女性が来た

月姫：あら、永琳。

永琳：・・・月姫さん。少しお待ちください。

月姫：わかったわ。

永琳は言い合いをしている輝夜達を見た瞬間すっと目を細めた

永琳：お客様である月姫さんをほって置いて、何をやってるのかシラ？

輝夜：びくっ え、えーりん・・・

底冷えするような低い声で輝夜に問いかける永琳
その顔は笑ってはいるが、目が本気だ

輝夜：あ、あのね、ち、違うのよ！この白髪が！

妹紅：はあ！？何言ってるんだ！元はといえはてめえが！

永琳：ダマリナサイ・・・

二人：びくっ

二人とも言い合いが再び始まるうとしていたが、永琳のドスの利いた一言に一瞬で押し黙る

永琳：姫様は後でお仕置きです。妹紅さんは、慧音先生に伝えておきます。

輝夜：嫌だ！

妹紅：それだけは勘弁してくれえ！

輝夜はおそらく実験につき合わされ
妹紅は慧音に頭突きがされるであろう

月姫：ふふっ、その辺で許してあげたら？

絶望している二人を救ったのは月姫だった

永琳：でも・・・

月姫：私は気にしてないから・・・ね？

そう言っつて微笑む

永琳：っ！・・・わかりました・・・

その微笑に顔を赤くして了承する永琳

二人：じとーっ

そして、そんな永琳をジト目で見る二人

永琳：・・・あら、ナニカ？

二人：なんでもございませんっ！

お前ら本当は仲いいだろ・・・

永遠亭

あのと、妹紅は名残惜しそうにしながら、人里へと帰っていった

永琳：さて、月姫さんは薬を貰いに来たんですね？

月姫：ええ、いつものやつをお願いね？

永琳：わかりました。しばらくお待ちください。

月姫は今回永遠亭に薬を貰いに来た

常備している風邪薬等が切れたため、貰いに来たのであった

月姫：さて、待ってる間どうしようかしら？

輝夜：私と遊ぶわよ！

????:待つウサ！

輝夜が月姫と遊ぶために自分の部屋に行こうとしたが、ウサミミの少女に邪魔をされる

輝夜：何よ、てゐ？

てゐ：私が母上と遊ぶウサ！

輝夜：はあっ？何言ってるの？私が先だからダメに決まってるでしょ。

月姫：てゐちゃん、こんにちわ。

てゐ：こんにちわウサ！母上！

ぎゅっ

輝夜をスルーし、元気に挨拶をしたあと、月姫に思いっきり抱きつけてゐ

輝夜：ああっ！何やってんのよ！今すぐ離れなさい！

てゐ：嫌ウサ！久々の母上分を補給するウサ！

月姫：ふふっ、存分に甘えなさい。

・・・輝夜ちゃん、別に私は苦しくないから気にしないで？

輝夜：そういう意味で言ったんじゃないわよ！

月姫は久々に会えた娘（むしろペット？）のような存在に好きに甘えさせる

輝夜は嫉妬から叫んだが、月姫には勘違いをされた

月姫：？、なんでかしら？

輝夜：え、いや、その・・・

月姫：・・・？

輝夜：うう・・・バカあああゝ！

月姫：え！？どうしたの、輝夜ちゃん！輝夜ちゃん！

輝夜は気恥ずかしさに耐えられず走り去った

てゐ：ふっ、邪魔者は去ったウサ。さあ、母上 私と遊びましょう

てゐは二人きりになれるチャンスを逃しはしまいとする

が、しかし

????：月姫さ〜ん・・・お薬ができましたよ〜・・・

てゐ？あんた何月姫さんに抱きついてんの？

ダメよ・・・

月姫は私だけのものなんだから・・・

薬ができたため、それを持ってきたブレザーを着たウサミミ少女が
目からハイライトを消して、てゐに近づいていく

てゐ：ウ、ウサ・・・（母上が関わると鈴仙は怖いウサ・・・）

ぎゅっ

恐怖のため更に月姫に抱きつくてゐ

うどんげ・・・

完全に無表情になったうどんげ

月姫：よしよし・・・怖がらなくても私がいるから。
・・・もう、ダメよ鈴仙ちゃん。怖がらせちゃ。

うどんげ……はっ！す、すいません！

月姫の言葉で元に戻るうどんげ

月姫：ふふっ、わかればいいのよ……

なでなで

うどんげ：はう……

うどんげは月姫に撫でられて、気持ちよさそうに目を細める

てゐ：羨ましいウサ……

月姫：ふふっ、ならてゐちゃんも……

なでなで

てゐ：ウサ

てゐも撫でられてご満悦だ

うごんげ：ふみゆゝ・・・はっ！忘れてました！

月姫さん、これお薬です。

月姫：ありがとうございます。

てゐ：ええ・・・もう薬ができたウサか・・・

師匠早すぎウサ・・・

もうちょっと一緒にいたかったウサ・・・

てゐは寂しそうである

うごんげ：わがまま言っちゃあダメよ。

そういつづづごんげも寂しそうである

月姫：ふふっ・・・

大丈夫よ、私はまだ帰らないわ。

てゐ：本当ウサか！

うどんげ：本当ですか！

二人とも月姫の発言にミニをぴんと立たせる

月姫：ふふっ、本当よ。

てゐ：っく！やった〜！

ギゅっ

うどんげ：嬉しいです！

ギゅっ

二人とも嬉しさのあまり月姫に抱きつく

月姫：あらあら・・・

月姫は抱きつかれながら微笑む

輝夜：月姫・・・さっきはごめんなさ・・・って！またあんなたち
はっ！

輝夜が落ち着いたため謝りに来たが、目の前の光景に騒ぎ始める

永琳：月姫さん、今日は泊まるのでしょうか・・・あなたたち・・・

永琳は宿泊するのかどうかを聞きに来たが、目の前の光景に青筋を
浮かべる

きゅーきゅー

月姫：ふふっ・・・毎日退屈しないわね・・・

月姫は実に楽しそうに呟いた

永遠の日々（後書き）

更新若干遅くなりまして申し訳ないです・・・
感想お待ちしております。

番外編 聖なる夜に貴女と・・・(前書き)

超短いです

1月6日加筆しました

番外編 聖なる夜に貴女と・・・

今日はクリスマス・・・

外から伝わってきたのか、幻想郷もクリスマス一色である

博霊神社

月姫：霊夢ちゃん。似合つかしら？

現在月姫はクリスマス用の衣装に着替えている
その格好とは・・・

霊夢：・・・ゲッジョブ。

ミニスカサントである
ちなみに購入した場所は香霖堂だ
こーりんがどうしてもオススメしてきたのだ
買うとわかったその時のこーりんの顔はすごく爽やかだった
この変態が！

霊夢：霖之助さん・・・今回はよくやったわ！

霊夢は心の底からそう思う
なんせ月姫のミニスカサントは反則的に可愛いのだ
ついでにエロい

霊夢：月姫さん！もの凄くお綺麗です！
月姫：あら、そうかしら？
ふふっ・・・嬉しいわ。

本当に嬉しそうに微笑む月姫
そんな格好でそんな微笑を見せられたら

霊夢：ぶしゅーっ！

ばたっ

霊夢が鼻血を出して倒れた

月姫：え！？霊夢ちゃん！？どうしたの！霊無ちゃん！

月姫は慌てて駆け寄る

霊夢：ふふ・・・月姫さん私に悔いはありません・・・
がくっ

月姫：え、えっっ！？

その後必死に介抱をする月姫と幸せそうな顔で死んでいる（死んで

ません）霊夢の姿がしばらく続いた

そんなことがしばらく続いた後に飛んでくる影があった

魔理沙：お〜い！霊夢〜！月姫さ〜ん！

魔理沙は器用に着地をする

魔理沙：おはようなんだぜ！今日はクリスマス・・・

挨拶をしてから、クリスマスの話をしようとしたが、月姫の格好を見て固まる

月姫：おはよう、魔理沙ちゃん。

・・・どうかした？

魔理沙：ど、どうしたんだぜ！その格好！

月姫：ああ、これは森近君がオススメしたから買ってきたの。

魔理沙：そ、そうですか・・・（こーりん・・・グツジョブなんだぜ！）

魔理沙の脳内ではこーりんが親指を立てて爽やかな笑顔を浮かべていた

月姫：・・・どう？似合うかしら？

そう言いくるりと一回転をする月姫

魔理沙：に、似合うんだぜ・・・（ぶぷっ）

月姫：ま、魔理沙ちゃん！鼻血！

月姫は先ほどの出来事とデジャヴを感じた

紫：月姫っっ　クリスマスに私がプレゼントで遊びに来たわよっっ！

そんな時にかなりアレな発言をする紫が来た

月姫：あら、紫。この格好どうかしら？

紫：・・・

月姫：紫？

紫は月姫を凝視して動かなくなった

月姫：紫？

紫：・・・月姫。

月姫：あ、やっと反応した。何かしら？

紫：部屋に行きましょう。

紫はやっと反応したと思ったら

完全に興奮していた

顔こそ笑顔だが、頬は紅潮し、息も荒い

完全に変態状態である

霊夢：させないわ！

魔理沙：そうだぜ！

しかし、そんな紫を止める霊夢たち

紫：邪魔しないで！今から月姫とサンタプレイを楽しむんだから！

霊夢：ダメよ！それは私の役目よ！

魔理沙：お前ら自重しろ！・・・私もしたいけど・・・

こんな感じで戦争が勃発した

月姫：・・・似合わないのかしら？

一人落ち込む月姫であった・・・

番外編 聖なる夜に貴女と・・・(後書き)

壊しすぎたね。

タイトルも関係ないし

守矢と博霊（前書き）

今更だけど、あけおめ！

今年もよろしくお願いします！

更新遅くなってすみませんでした！

今回は守矢勢です

守矢と博霊

守矢神社

月姫：ふふっ・・・
????：ふふふ・・・

現在月姫は、本来ライバルであるはずの守矢神社に遊びに来ており
縁側にて緑髪の巫女と会話を楽しんでいた

91

月姫：ふふっ、早苗ちゃんと話をしてしていると楽しいわ。
早苗ちゃんは本当にいい子ね。
早苗：え！そ、そんなことはないですよ！

早苗は月姫に褒められ顔を真っ赤にして否定する

????：こらこら、あまりうちの早苗をからかわないでくれ。

そんな時、後ろのふすまが開きしめ縄をつけたガンキャノン・・・

失礼

女性が注意をしに来る

月姫：ふふっ、神奈子。私は本心からいい子だと思うわ。

神奈子：・・・そうかい。

月姫と神奈子はそう言い、笑いあう

スパーン!

????：こらー！神奈子！私を差し置いていい雰囲気になるな！

笑いあっていると、後ろのふすまが勢いよく開き目玉のついた変わった帽子を被っている幼女が乱入してきた

月姫：あら、諏訪子。

諏訪子：まったく・・・

月姫！来てたなら言ってくればいいのに！

月姫：ふふふ・・・ごめんなさいね。

早苗ちゃんと話をするのがあまりにも楽しかったもんだから・・・

諏訪子：むう・・・じゃあ、私とも話しよう！

まるで構ってもらえない子供が言うように言う諏訪子

月姫：ふふつ・・・わかつたわ。

諏訪子：わーい！

神奈子：ぼそつ そんなんだから威厳がないって言われるんだよ・・・

諏訪子：何か言った？

神奈子：いや、何も。

完全に子供な諏訪子とそれにため息を吐く神奈子

諏訪子：でもお話の前に・・・

月姫ぎゅ〜！

月姫：はいはい・・・ぎゅー・・・

諏訪子が月姫に抱きつき、それに微笑みながら抱き返す月姫

早苗：う、羨ましい！

神奈子：・・・じゃあ、抱きついてきたらどうだい？

早苗：え！？・・・でも今行ったら諏訪子様の邪魔になりますし・・・
・それに恥ずかしいですし・・・

もじもじしながら言う早苗

神奈子：ええい！しゃきつとしないかい！

こうガバツと抱きつけばいいんだよ！ガバツと！

早苗：そ、そう言われても・・・

神奈子：ええい！見本を見せてやる！

早苗：え？見本って？ちよ、神奈子様！

そう言うつや否やスタスタと月姫に向かって歩いていく神奈子

月姫：・・・？どうかした？

諏訪子：？、どうかしたの？神奈子。私今月姫分を充電中だから邪魔しないで。

神奈子：・・・

ガバツ！

月姫：え？え？

諏訪子：ちょ、何やってんの！私が今抱きついてんの！ていうかあんた抱きつくようなやつじゃないでしょ！

神奈子は宣言どおりガバツと抱きついた

月姫：・・・神奈子も甘えたかったのかしら？

なでなで

神奈子が日ごろの疲れから甘えたがっていると勘違いした月姫は神奈子の頭を撫でる

神奈子：・・・

撫でられて恥ずかしくなってきたのか、顔がだんだんと赤くなっていく神奈子

月姫：日ごろの参拝とかで疲れてるんでしょ？存分に甘えなさいな。

その一言で神奈子は体をふるふると震わせ

神奈子：月姫っ！やっぱり昔から好きだ！結婚しよう！

諏訪子：あんた何言ってるのおおお！

早苗：落ち着いてください！

物凄い発言をした

月姫：あらあら、ありがとう。

頬を若干染めているが、月姫は冗談だと思っているようだ

しばらくその騒ぎは続き・・・

神奈子：いやいや、すまないね。みつともないところを・・・

まだ若干顔が赤いが、冷静になった神奈子が謝罪をする

月姫：ふふっ、別に良いわよ。それに嬉しかったわ。

そう言って本当に嬉しそうに微笑む月姫

神奈子：っ！そ、それは期待しても・・・

諏訪子：はいはい。黙って。

早苗：神奈子様。落ち着かないと夜のご飯はありませんよ？

神奈子が聞こうとした瞬間両側からすごいプレッシャーがかかる

神奈子：なんだい！私が有利だから嫉妬してんのかい？

ドヤ顔で挑発する神奈子

諏訪子：・・・全然有利じゃないよ。あれは、月姫のいつもの天然だよ。むしろ私の幼児体系が有利だよ。

早苗：何勝手に月姫様をロリコンにしようとしてるんですか。

月姫様は私のようなおとなしくていい子が好みにジャストフィットなんですよ。

諏訪子：おとなしい（笑）

神奈子：いい子（笑）

早苗：・・・いい度胸だな。

いったん収まったのに再び戦争が勃発

月姫：こらー！やめなさいな。

・・・なんで喧嘩してるのかはわからないけど、私は仲のいい貴女達が大好きよ。

月姫の大好き発言に

神奈子：だ、大好き・・・

諏訪子：うへへ・・・

早苗：そ、そんな月姫様・・・まだ、私達は結婚前・・・

全員顔を赤らめる

若干一命ほど危ない妄想をしているが

月姫：だから、仲良く・・・ね？

小首を傾げ満面の笑みでそう言う月姫
その結果

三人：バタンッ

当然こうなる

抱きつきとかは平気なくせに、笑顔には弱いやつらである

月姫：ちょ、ちょっと！三人ともどうしたの！？みんなぐ……

月姫の叫びは空へと消えていった

守矢と博霊（後書き）

いやはや、ちよっとキャラが崩壊しすぎたような気が・・・
ま、いつかw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0359z/>

東方女神録

2012年1月6日14時47分発行